

外来魚缶詰作成の経緯

滋賀県漁業協同組合連合青年会
中村清作・鶴飼広之

今回、本会で外来魚を使った缶詰を作成しました。

これに至った経緯は、琵琶湖でブルーギル、ブラックバスが捕獲されるようになり、これまで駆除した後、ほとんどが魚粉として処理されてきました。繁殖力が強く駆除を続けてもなかなか減少しない状況の中で、平成19年11月に天皇皇后両陛下をお迎えして、本県で「全国豊かな海づくり大会」が開催され、式典のお言葉の中に「ブルーギルは50年近く前米国より持ち帰り、水産庁の研究所に寄贈したものであり、当初、食用魚としての期待が大きく、養殖が開始されましたが、今、このような結果となったことに心を痛めています」とのお言葉があり、また、漁業者も駆除が長期にわたるであろうと見込んでいることもあり、魚粉以外に新しい利用方法が出来ないかとの思いで、今回缶詰作成を試みました。まだまだ試作段階ですが、今日は昨年10月に作った缶詰を持ってきましたので、試食をしていただきたいと思います。また、今後の参考にしたいのでアンケートにご協力いただきたくお願いします。

外来魚の問題をこのように多くの方が関心を持って集まっておられることに、有り難く思います。